

保護者の安全チェックリストの回答状況よりみた 対策ポイントに関する検討

(分担研究：小児の事故とその予防に関する研究)

田中哲郎¹⁾、牧野 尚¹⁾、宮沢博夫¹⁾、青木龍哉²⁾

要約：静岡県沼津市及び焼津市において安全チェックリスト、パンフレットによる事故防止の指導を実施し、596名より回答を得た。安全チェックリストにおいて実施度の低い項目は浴室の外鍵の施錠、入浴後の水抜きの実施、階段よりの転落防止の項目であった。

これらの結果及び事故による障害の重さより、2歳の誕生までの浴室での溺水防止、階段よりの転落防止について、保護者に対する啓発・教育に力を入れる必要があることが明らかになった。

見出し語：事故防止、安全チェックリスト

はじめに

子どもの事故防止のための母親への指導方法として安全チェックリストの利用が考えられている¹⁾²⁾。この方法は母親の子どもの事故防止への配慮が必ずしも十分でない点を明らかにし、それらの点を指導することにより、子どもの事故防止を行おうとするもので、これらの指導により子どもの事故を減らす効果があると和歌山県御坊保健所の検討で明らかにされている³⁾。

平成5年8月より静岡県焼津市及び沼津市において、安全チェックリストを使用し、事故防止に務めている。今回、和歌山県御坊保健所の20数項目より項目数の記入が容易な10項目に減らした。

その安全チェックリストへの記入結果より、保護者の子どもへの事故防止対応の実施状況について調査を行ったので報告する。

方法および対象

静岡県焼津市、沼津市での6ヵ月健康診査、1歳半健康診査実施の案内状と共に安全チェックリスト(表1、表2)を郵送し、自宅にて記入するように依頼し、健診時回収した。

期間は平成5年9月より11月までの3ヵ月間とした。

結果

1.対象者

(1) 乳児用安全チェックリスト

2) 和歌山保健環境部

(Dept. of Public Health, Wakayama Prefecture)

1) 東京医科大学八王子医療センター小児科
(Tokyo Medical College Hachioji Medical Center)

表1 子どもの安全チェックリスト《乳児用》

お子さんについて当てはまるものを○で囲んでください。

- | | | | |
|---|-----|------|-----|
| 1.子どもだけをおいて家を留守にすることがありますか。 | いいえ | ときどき | はい |
| 2.階段や段差のあるところには、子どもが落ちないような対策がしてありますか。 | はい | ときどき | いいえ |
| 3.ビーズ・おはじき・硬貨・ボタンなどの小さな物で一人で遊ばせますか。 | いいえ | ときどき | はい |
| 4.タバコ、薬、マッチ、化粧品、洗剤、刃物針などを子どもの手の届かない所においていますか。 | はい | ときどき | いいえ |
| 5.熱いお茶、ポット、鍋、アイロンなどを子どもの手の届かない所においていますか。 | はい | ときどき | いいえ |
| 6.暖房としてストーブやファンヒーターを使う際、やけどに気を付けていますか。 | はい | ときどき | いいえ |
| 7.浴槽に水をためておきますか。 | はい | ときどき | いいえ |
| 8.浴室に鍵を掛けるなど子どもが一人で入らないような対策をしていますか。 | はい | ときどき | いいえ |
| 9.自動車の中に子どもを一人しておくことがありますか。 | いいえ | ときどき | はい |
| 10.自動車に乗せる時は、小児用シートベルト付座席を使っていますか。 | はい | ときどき | はい |

表2 子どもの安全チェックリスト《幼児用》

お子さんについて当てはまるものを○で囲んでください。

- | | | | |
|---|-----|------|-----|
| 1.子どもだけをおいて家を留守にすることがありますか。 | いいえ | ときどき | はい |
| 2.子どもをソファやベッドなど高いところに置いたときは、目を離さないようにしていますか。 | はい | ときどき | いいえ |
| 3.階段や段差のあるところには、子どもが落ちないような対策がしてありますか。 | いいえ | ときどき | はい |
| 4.タバコ、薬、マッチ、化粧品、洗剤、刃物針などを子どもの手の届かない所においていますか。 | はい | ときどき | いいえ |
| 5.熱いお茶、ポット、鍋、アイロンなどを子どもの手の届かない所においていますか。 | はい | ときどき | いいえ |
| 6.暖房としてストーブやファンヒーターを使う際、やけどに気を付けていますか。 | はい | ときどき | いいえ |
| 7.浴槽に水をためておきますか。 | はい | ときどき | いいえ |
| 8.浴室に鍵を掛けるなど子どもが一人で入らないような対策をしていますか。 | はい | ときどき | いいえ |
| 9.自動車の中に子どもを一人しておくことがありますか。 | いいえ | ときどき | はい |
| 10.自動車に乗せる時は、小児用シートベルト付座席を使っていますか。 | はい | ときどき | はい |

項目	いいえ	ときどき	はい
1.子ども一人での留守番	487 (81.7)	103 (17.3)	6 (1.0)
2.高所からの転落防止	551 (92.4)	31 (5.2)	11 (1.8)
3.階段よりの転落防止	310 (52.0)	39 (6.5)	240 (40.3)
4.小物の整理	534 (89.6)	34 (5.7)	28 (4.7)
5.食卓などでの熱傷防止	575 (96.5)	7 (1.2)	14 (2.3)
6.暖房器具での熱傷防止	456 (76.5)	13 (2.2)	18 (3.0)
7.入浴後の水ぬき	406 (68.1)	77 (12.9)	113 (19.0)
8.浴室の外かぎ	257 (43.1)	10 (1.7)	327 (54.9)
9.子どもだけの車の中への 放置。	489 (82.0)	97 (16.3)	9 (1.5)
10.シートベルトの使用。	436 (73.2)	33 (5.5)	118 (19.8)

項目	いいえ	ときどき	はい
1.子ども一人での留守番	470 (80.2)	108 (18.4)	7 (1.2)
2.階段よりの転落防止	239 (40.8)	49 (8.4)	292 (49.8)
3.小物の整理	494 (84.3)	70 (11.9)	22 (3.8)
4.薬物の誤飲防止	490 (83.6)	60 (10.2)	36 (6.1)
5.食卓などでの熱傷防止	552 (94.2)	15 (2.6)	19 (3.2)
6.暖房器具での熱傷防止	449 (76.6)	24 (4.1)	7 (1.2)
7.入浴後の水ぬき	378 (64.5)	108 (18.4)	100 (17.1)
8.浴室の外かぎ	229 (39.1)	40 (6.8)	316 (53.9)
9.子どもだけの車の中への 放置	461 (78.7)	113 (19.3)	11 (1.9)
10.シートベルトの使用	344 (58.7)	73 (12.5)	165 (28.2)

回答者の総数は596名で子どもの性別は男児289名、女児307名であった。

月齢は5ヵ月33名(5.5%)、6ヵ月117名

(19.6)、7ヵ月199名(33.4%)、8ヵ月12名(2.0%)、9ヵ月1名(0.2%)、10ヵ月2名(0.3%)、11ヵ月52名(8.7%)、12ヵ月178名(29.9%)、13ヵ月2名(0.3%)であった。

(2) 幼児用安全チェックリスト

幼児用安全チェックリストの回答者総数は586名で、子どもの性別は男児306名(52.2%)、女児280名(47.8%)であった。

年齢は1歳5ヵ月23名(3.9%)、1歳6ヵ月343名(58.5%)、1歳7ヵ月205名(35.0%)、1歳8ヵ月15名(2.6%)であった。

2. 乳児用安全チェックリストの回答結果

10項目中実施度の低かった項目を順にあげると、浴室での溺水防止のための外鍵43.1%、階段などの転落防止52.0%、浴室での溺水防止のための入浴後の水抜き68.1%、シートベルトの使用73.2%、暖房器具による熱傷防止76.5%、子ども一人での留守番81.7%、子どもだけでの車への放置82.0%、小物の整理89.6%、高所からの転落防止92.4%、食卓での熱傷防止96.5%であった(表3・表4)。

表4 安全チェックリスト回答結果
《乳児用》

1) 浴室の外鍵	43.1%
2) 階段よりの転落防止	52.0%
3) 入浴後の水抜き	68.1%
4) シートベルトの使用	73.2%
5) 暖房器具での熱傷防止	76.5%
6) 子ども一人での留守番	81.7%
7) 子どもだけの車への放置	82.0%
8) 小物の整理	89.6%
9) 高所からの転落防止	92.4%
10) 食卓での熱傷防止	96.5%

3. 幼児用安全チェックリストの回答結果

10項目中実施の低かった項目順にあげると、浴室での溺水防止のための外鍵39.1%、階段などの転落防止40.8%、シートベルトの使用58.7%、浴室での溺水防止のための入浴後の水抜き64.5%、暖房器具による熱傷防止76.6%、子ども1人での車の残留78.7%、子ども1人での留守番80.2%、薬物の誤飲防止83.6%、誤飲防止のための小物の整理84.3%、食卓などでの熱傷防止94.2%であった(表5・表6)。

表6 安全チェックリスト回答結果
《幼児用》

1) 浴室の外鍵	39.1%
2) 階段よりの転落防止	40.8%
3) シートベルトの使用	58.7%
4) 入浴後の水抜き	64.5%
5) 暖房器具での熱傷防止	76.6%
6) 子どもだけの車への放置	78.7%
7) 子ども一人での留守番	80.2%
8) 薬物の誤飲防止	83.6%
9) 小物の整理	84.3%
10) 食卓での熱傷防止	94.2%

考察

今回の検討では、安全チェックリストと過去に発生した事故との間には必ずしも相関がみられなかった。これは、事故後は保護者がそれらの項目について注意するようになったためとも思われる。このため、安全チェックリスト記入後、安全に対する不十分な保護者の事故発生について調査すれば、安全チェックリストと事故発生頻度の関係が明らかにできるものと考えられた。

安全チェックリストへの記入を行うことにより、子どもの事故について保護者に考える機会を与え、

事故を防止する効果があるものと思われる。また、子どもの事故防止は、法律/施行、工学/技術、教育/行動変化の3つの方法による対策が必要であり、安全チェックリストなど保護者への指導のみだけで劇的に十分な効果をあげることは難しいとも考えられる。

社会全体が子どもの事故というものに対して常に注意する社会ができていれば、子どもの事故は徐々に減少していくものであり、保護者への息の長い活動が必要である。

安全チェックリスト上、保護者の安全意識の低い項目は、溺水防止のための浴室の外鍵の施工と水抜きであった。また、階段などよりの転落防止の対策の項目も低かった。

以上のことより、小児の事故防止について何を重点に啓発することが大切であるかを考えると、死亡数の多さ、重症で後遺症の残ることが多いなどより、溺水事故を中心にキャンペーンすることが必要と考えられた。中でも、6ヵ月から2歳の誕生日までの浴室での溺水事故が多いことより、浴室での事故防止に最重点をおくべきである。

このためには、入浴後浴槽の水を抜く習慣をつける、外鍵をつけ入室できなくする、浴槽の蓋はしっかりしてたわわないSGマーク付のものにする、また、浴室のドアが自動的に閉じるような装置をつけること、浴槽内に子どもが侵入した際には警報音が鳴るといような感知器の開発を急ぐ必要がある。将来はこれらの浴室の安全対策のうちどれか一つを義務付けるような法律が施行されることが望ましい。これにより0~4歳の溺水事故の大部分は防止することが可能になると思われる。

保護者は保健所などの健診の場において、栄養

指導などと共に事故防止対策についての具体的な指導も期待しており⁴⁾、安全チェックリストは米
国小児科学会でも使用されており⁵⁾、保護者への
啓発教育上重要な位置を占めるものと考えられた。
おわりに

安全チェックリストを用いた子どもの事故防止
の指導は、事故防止のための啓発・教育上の重要
な方法と思われる。

また、溺水防止、階段よりの転落防止に対する
保護者の対策が不十分であることより、この点に
ついて今後とくに啓発すべきであると考えられた。

〔文献〕

- 1) 田中哲郎他：乳幼児の事故防止プログラムの
試案作成,平成2年度厚生省心身障害研究「地域・
家庭環境の小児に対する影響などに関する研
究」,149-162,平成3年.
 - 2) 梅田勝他：小児事故防止のための保健指導,平
成2年度厚生省心身障害研究「地域・家庭環境の
小児に対する影響などに関する研究」,176~182,
平成3年.
 - 3) 清水美登里他：小児の事故防止のための保健
指導の試みー保健所における健診の場を利用して
ー,日本医事新報,3566,48~53,平成4年.
 - 4) 田中哲郎：小児事故防止のための啓発メディ
アについての基礎的研究,平成4年度厚生省心身障
害研究「生活環境が子どもの健康におよぼす影響
に関する研究」,99~102,平成5年.
 - 5) American Academy of Pediatrics : “Guideline
for health supervision” and “The injury prevention
program” ,1985.
- 伊藤助雄,困京子,伊藤雄平（共訳）：小児の健康
管理読本,日本小児医事出版社,1986.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:静岡県沼津市及び焼津市において安全チェックリスト・パンフレットによる事故防止の指導を実施し、596名より回答を得た。安全チェックリストにおいて実施度の低い項目は浴室の外鍵の施錠、入浴後の水抜きの実施、階段よりの転落防止の項目であった。これらの結果及び事故による障害の重さより、2歳の誕生までの浴室での溺水防止、階段よりの転落防止について、保護者に対する啓発・教育に力を入れる必要があることが明らかになった。